

令和6年 神奈川県広報コンクール最優秀作品の概要

1 【広報紙・市部】 伊勢原市「広報いせはら」（2月1日号）



【主たる記事の掲載意図】

令和6年4月から市内の下水道使用料を引き上げることに先立ち、市民に改めて下水道の大切さを理解してもらうため、家庭や工場などから排出された下水が綺麗になるまでの工程や、下水道施設・設備の維持管理の必要性を特集しました。

表紙には、遠近法を用いて、普段は見ることのできない地下の下水処理施設の広大で薄暗い雰囲気や伝わるように撮影した1枚写真を使用しました。この写真により、読者の興味を誘い、特集記事へ導入するねらいがあります。

特集記事では、下水が綺麗になるまでの工程を、写真やイラストで紹介することで、子どもでも一目で分かりやすく伝えるように工夫しました。また、市内の下水道整備を進めるための工事内容や方法、整備状況を詳しく伝え、今後必要となる維持管理費をグラフで表現することで、使用料引き上げの必要性を、市民に正しく理解していただけるような内容を心がけました。最後には、下水道施設見学会の案内を掲載することで、さらに下水道の重要さを知ってもらう機会につながられるような構成としました。

【講評】

下水道の老朽化問題はどの自治体にとっても課題であり、実は大きな社会課題にも関わらずあまり知られていませんが、表紙の写真にインパクトがあり、下水管という無機質なものに「地下世界を巡る旅」というロマンを感じるタイトルがつけられており、興味をひきます。下水道料金の値上げに伴い、その維持管理にコストがかかる背景や今後整備を進める地域など、行政だからこそ伝えられる情報を単なる下水道料金の値上げというお知らせではなく、なぜ値上げになるのかをイラストを使って誰もが分かりやすく説明されている点を評価しました。



2【広報紙・町村部】中井町「広報なかい」（8月1日号）



【主たる記事の掲載意図】

9月1日が「防災の日」と定められていることから、毎年8月号で防災の特集を組んでいる。各災害の基本的な内容から、警戒レベル、事前準備や被災したときの行動、情報の集め方など、網羅的に記事を掲載し、防災意識を様々な角度から向上させられるような構成にしました。

【講評】

家庭の防災対策を促す特集自体は普通ですが、それでも繰り返し住民に訴えたい内容です。デザインに関してはまだ改善の余地が十分ありますが、チェックリストを入れたり、度々変更され、認知度が高いとはいえない新しい避難情報（警戒レベル）の表を思い切って1ページ使い、「とにかくレベル4までに避難を」というメッセージが分かりやすく、知ってほしい情報を実直に詰め込んでいる点に好感が持てます。

また、やさしい日本語防災情報は、中井町に住む外国人、住民への寄り添いが感じられます。

● 2 家庭の防災対策を再確認！

防災対策、できていますか？ 事前に備えましょう！

台風や大雨などの風水害は、季節が過ぎることで、気象情報などに注意し、大雨などが予想される場合はあらかじめ準備しておくことが大切です。避難対策をアップデートして、風水害に備えましょう。

【屋外の確認事項】

- 強風で飛ばされそうなものの中に入れておく
- 窓枠や窓はしっかりと鍵をかける
- 自家用車のタイヤを点検しておく
- 自衛に備わっているものが適切に動く

【屋内の確認事項】

- 懐中電灯、乾電池式ラジオ、カセットラジオなどの非常用物品を確認する
- 窓ガラスに飛散防止フィルムを貼る
- スマートフォンやパソコンを充電する
- 万一の断水に備えて浴槽に水をためておく

いざ避難！ どう動く？

避難行動をとるタイミングとして、早めに避難行動を取ることがとても大切です。雨の降り方や降水量を確認し、気象庁や中井町、町が発する情報をまめに入手しながら、早め早めの避難行動を行ってください。

【避難する際の確認事項】

- 片足の片足を閉める
- 電気のブレーカーを落とす
- 避難ルートを確認しておく
- 避難ルート、家族等の安否確認方法を再確認する

【非常用持ち出し品】

- 貴重品 □ 飲料水 □ 食料品 □ 現金持出品
- ヘルメット □ 懐中電灯 □ 防災頭巾
- マスク □ 傘 □ 避難用ラジオ
- 携帯電話充電器 □ モバイルバッテリー
- 避難用タオル □ 洗面用具
- 応急処置用品 □ 医薬品 □ 避難用靴

● 特集

避難情報（警戒レベル）は5段階に分かれています

警戒レベル	市民がとるべき行動	避難情報（警戒レベル）の発令
5	命の危険 直ちに安全確保！ すでに安全が確保できず、命が危険にさらされている。今いる場所より安全な場所へ直ちに移動する。	★緊急安全確保※ ◆大雨特別警報 など ※必ず発令される情報ではありません。
4	危険な場所から全員避難 速やかに避難先へ避難する。公的な避難場所までの移動が危険な場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難する。 台風などにより危険が予想される場合は、避難先が定められる前に避難する。	★避難指示 ◆危険な場所情報 など ◆土砂災害警戒情報 など
3	危険な場所から避難に時間がかかる方を避難 高齢者、障がいのある方、乳幼児などその支援者は避難する。そのほかにも避難先が定められる前に避難、避難準備をする。	★高齢者等避難 ◆土砂警戒情報 など ※避難先が指定された避難所（土砂災害）に避難する可能性がある（土砂災害）避難所へ必ず避難します。
2	自らの避難行動を確認 ハザードマップなどにより、自宅の災害リスクや避難経路、避難場所、避難時の対応方法などを確認する。	◆大雨注意報 ◆洪水注意報 など
1	災害への心構えを高める 気象情報などの最新情報に注意する。	◆早期注意情報

※避難情報に関するガイドライン（内閣府）に基づき作成

かながわ防災パーソナルサポート

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、災害時の避難に必要となる物資や避難先に関する情報を提供することができなくなりました。19年度公式アカウント「かながわ防災パーソナルサポート」の運用をしています。

5つの主な機能

災害に関する情報が届く

自らの被災リスクが想定される場合に、事前の備えに関する情報を届けてくれます。

避難に役立つ情報を届ける

気象情報やハザードマップ、避難所開放情報、ライフラインの状況など、避難に役立つ最新の情報を届けてくれます。

事前の備えに役立つ情報を届ける

地震や風水害に対する対策や避難先に関する情報を届けてくれます。

その他
(今後機能拡充予定)
災害時に避難先を支援するシステムや個人に対応した情報提供などの機能を段階的に追加していきます。

二次コードから登録できます。
※登録は、スマートフォンアプリで利用方法をダウンロードしてください。
※登録先は、<https://www.pref.kanagawa.jp/occc/> (URL: https://occc.jp/occc)

3 【広報写真（一枚写真）】 秦野市「広報はだの」（10月1日号）

人口と世帯 6.9.1現在
 県人口 195,670人(毎月比+22)
 内 男性 95,124人(毎月比+9)
 女 75,346人(毎月比+13)
 世帯数 75,346世帯(毎月比+68)

毎月2回(1日・15日)発行

No.1340

主な内容
 ◎森林を切り、染しむイベント(4頁)
 ◎全県7庄屋の入新・入替祭(5頁)
 ◎市議会特別情報システム(5頁)
 ◎ともしび集野2024(8頁)

特集 (1-3面)

技
 の祭典

紙面アンケート
 スマホから
 1分で回答

今月の表紙
 スーっとかすかすの扉扉音を響かせながら、真っすぐ目が通ったヒノキの側面を、女のように鋭が通る……。市内の大工が手に持つ鉋から現れたのは、透き通るほど薄い「削り華」。その薄さこそ、まさに匠の技といえる。
 「木を真実を貫く」
 法隆寺と薬師寺の修理・再建で名を上げた大工棟梁が築いた言葉。木の質は土の質に影響され、木の癖は山の環境が作り出す。
 丹沢山地をはじめ、市域の約52%を森林が占め、良質な木材が生み出されるこの地域に、来月、全国から熟練の大工たちが集う。培った鉋の「技」を武器に、千分の1ミリメートル単位でのぞめる「全国削ろう会秦野大会」の開催へ向け、地元の大工や林業界は思いをたぎらせている。

編集・発行 秦野市 政策部広報課 〒257-8501 秦野市杉町一丁目3番2号 電話0463(82)5111 0463(82)8792 <https://www.city.hadano.kanagawa.jp>

【掲載意図】

全国削ろう会のメインイベントとして開催される鉋の薄削り競技。1000分の1ミリメートル単位を競う匠の技術の高さと、それにひたむきに向き合う大工の精悍さを表現しました。主題である大工を引き立てつつ、鉋から現れる削り華を副題として認識してもらおうべく、望遠レンズの圧縮効果を利用し、どちらも小さく映らないようにするとともに、削り華を斜線に配置することでリードラインとし、主題への視線誘導を作りました。また、サイドから施したライティングは、表面が透ける角度を試行錯誤しながら、削り華の“薄さ”を強調するとともに、F値の調整とNDフィルターによる減光を組み合わせて黒抜き表現をすることで、主題である大工が鉋削りに取り組む“孤独な戦い”を表しました。

【講評】

薄く削られた削り華が飛ぶ様の一瞬を捉えた構図は、撮影者と被写体双方の気迫が見事に調和した一枚であり、技術力もさることながら、その熱量・こだわりが凝縮された作品だと思えます。光の角度と強さ、白と黒の面積バランス、削り華の飛ぶ角度、見出しとの組み合わせなど、作品への愛にも近い熱を感じることができました。

4 【広報写真（組み写真）】 茅ヶ崎市「広報ちがさき」（12月1日号）

広報ちがさき

CHIGASAKI

2024.12
No.1197

いwashのかば焼き

2019年から検討を進めてきた市内の中学校に給食を導入するプロジェクト。ついに10月から6校の中学校給食がスタートしました。残る7校も2025年5月から開始します(2面に続く)。

学務課 ☎(81)7223

START
中学校給食

季節の野菜入り
ドライカレー

学びを支え
未来を育てる

デミグラスソース
ハンバーグ

近藤牛乳
いつでも読める
多言語・音訳でも
カタログポスター

【掲載意図】

茅ヶ崎市では昨年 10 月から中学校給食が順次スタートしています。表紙のレイアウトは一枚写真ではなく、給食をおいしそうに食べている生徒 4 人のさまざまな表情を捉えた組み写真とし、現中学生だけでなく、これから中学生になる子どもたちやその保護者へ、給食の良さ、楽しさが伝わるよう臨場感のある構成となるよう工夫しました。

【講評】

1 つ 1 つの写真の光の使い方などが上手であり、食べている表情や料理の美味しさを際立たせ、食の楽しさ、喜びが学校生活を豊かにし、未来につながる、食育の重要性が伝わります。給食のつくり手の思い、食べ手の喜びが大胆な組み合わせにより相互反応してさらに楽しい仕上がりになっている点が秀逸でした。

5 【映像】 座間市「女性消防官の一日（消防隊編）【完全密着】」



【主な内容・あらすじ】

座間市女性消防隊員の 24 時間に密着し、消防車ライトの点検などの通常業務や、様々な想定のもとに行われる訓練、食事、緊急出動、新人教育、講演会などの様子を公開しています。全国的に少ない女性消防隊員の日常の様子や活躍を知ることができるだけでなく、普段は見ることのできない消防隊員たちの日常を、至近距離から見るすることができます。隊員同士の自然体なコミュニケーションなど、消防隊員という職業により親近感が湧くような内容になっています。

【制作意図】

女性消防職員は全消防職員の 3 % (全国平均) と多業種と比較しても低水準であり、動画を通して身近に感じてもらうと共に女性が活躍できる職場として認知度を上げることを目的として制作しました。



【講評】

消防士という過酷な業種、それを澆漑とこなす女性を魅力的に描いています。さらに、男女とも消防士を増やしたい、特に女性にも参入してもらいたいというメッセージとともに、座間市がジェンダーと向き合っている姿勢が間接的に伝わります。制作技術の面では、ハンドルの下からの撮影や小気味いいテンポの良さが編集されているのも、この作品の魅力を引き上げています。